

令和7年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【大宮八幡中学校】

⑥	次年度への課題と学力向上策
知識・技能	全国学力・学習状況調査においては、成果が見られた教科もあれば、あまり改善が見られない教科もあった。次年度に向けて、基礎学力の向上を目指した取組を検討していく。特に、国語・社会とった教科に着目し、ICTを活用した「個に応じた学習」を進めていく。
思考・判断・表現	今年度から重点的に取り組んだ「教科横断的な考え方」をより多くの教科で意識していくことで、改善を目指していく。また、発表活動にも重点的に取り組む時間を設け、自分の考えを表現する活動や、他者の意見を聞き理解する活動の時間を増やしていくように、研修で共通認識を図る。

①	今年度の課題と学力向上策	
	学習上・指導上の課題	学力向上策【実施時期・頻度】
知識・技能	<p><学習上の課題> 知識・技能の習得状況の個人差が大きい。また、教科によつての定着度や、学習への意欲の差も偏っている。</p> <p><指導上の課題> 授業では、支援を要する生徒が多い。また、継続的に家庭学習に取り組むことが十分にできていない。</p>	⇒ テスト前の学習相談日の日数を1日間から2日間に変更。また、「数学デー」と称し、数学を中心とした知識・技能の内容に取り組む日を設定することで、基礎学力の定着を図る。【学期に2回程度】 「朝サプ」と称し、朝読書の時間を活用し、教科担当が設定した「スタディサプリ」に取り組む時間を設定し、自分で単元を選択して学習に取り組めるように設定する。【2週に1回程度】
思考・判断・表現	<p><学習上の課題> 自分の考えを表現することに苦手意識を持っている生徒が多い。また、表現力にも課題が見られる。</p> <p><指導上の課題> 生徒が主体となって授業が展開される時間が、教科によって差が生まれている。</p>	⇒ 「学習の基礎となる「学びの種」を育てよう」とテーマを設定し、各教科で「3つの資質・能力」を基調とした授業を実践し、教科横断的な考え方の土台を作っていく。【単元ごとに実施】 1人1台タブレット端末を活用し、情報活用や発表の能力が求められる学習活動を多く設定する。【単元ごとに実施】

⑤	評価(※)	調査結果 学力向上策の実施状況
知識・技能	B	「スタディサプリ」を活用した朝学習を定期的に行うことで、基礎的・基本的な内容の反復学習を行うことができた。PCの持ち帰りは実施しているが「スタディサプリ」「ドリルパーク」等の家庭学習の定着には以前として課題が見られるため、引き続き、声かけをしていく必要がある。
思考・判断・表現	B	各教科の授業において、授業前に確認し、教科横断的な考え方を意識させることが、継続してできている。また、ICT機器の活用も継続して行うことができ、学習意欲の向上や、発表への前向きな取組につながった。

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)

②	全国学力・学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	国語では、「漢字」や「語彙」についての区分で全国平均を上回ることができた。数学では、多くの区分で県・全国平均の平均正答率を上回ることができた。「データの活用」において、特に「相対度数」の意味を理解しているかを問う問題に課題が見られた。
思考・判断・表現	国語は、全国平均をわずかに下回ってしまったが、数学では、大きく上回る結果となった。国語の「記述式」の項目で課題が見られたが、数学では、「記述式」の項目で全国平均を大きく上回る結果となった。国語の「記述」の項目の問題の無解答率が全国平均等と比べると多い結果となっているため、記述解答への苦手意識を無くしていくための活動を学校全体として増やしていきたい。

①結果分析(管理職・学年主任等)

②詳細分析(学年・教科担当)

④	さいたま市学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	同一集団での経年比較により、数学・社会の知識・技能について一定の改善がみられた。どの教科においても、特に数学においては、数学デーを継続して実施したことにより、計算や作図などの問題の正答率に向上がみられた。今後も、知識の習得や既習事項の確認に繰り返し取り組ませていく時間を設けられるように、授業改善に努めていく。
思考・判断・表現	同一集団での経年比較により、数学・理科の思考・判断・表現について一定の改善がみられた。今年度、教科横断的な考え方を意識させることを意識した結果、数学・理科の教科間で結びつきを持って考えることができたことが要因として考えられる。今後も、教科横断的な視点をもたせながら授業を展開できるように、研修等を進めていきたい。

③	中間期報告	中間期見直し	
	評価(※)	学力向上策の実施状況	学力向上策【実施時期・頻度】
知識・技能	B	「数学デー」や「朝サプ」を活用し、基礎学力の向上を目指して、継続的な学習機会を確保することができた。しかし家庭での「スタディサプリ」やPCを活用した学習にはまだまだ課題が見られる。	変更なし
思考・判断・表現	B	掲示物や授業前にどの「資質・能力」に本時の授業が当てはまるのか、各授業で確認してから授業に入ることにより、教科横断的な考え方を意識させることができた。また、ICT機器を多くの場面で活用することで、生徒の学習意欲を高めることができた。	変更なし

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)